

特定非営利活動法人「防災のことは研究会」



☆4月10日（金）定期研究発表会のご報告

テーマ：広島市集中豪雨・土砂災害から学ぶこと

今回は、最初に代表理事長の新井恭子が、2月末に実施した広島市土砂被害の現地視察と聞き取り調査の報告を行い、参加の皆様「伝わらなかった避難勧告」について自由に討論していただきました。昨年NPO発足後、過去3回の研究会では、気象・防災の研究者の方たちによる、研究発表が中心でした。今回は少し趣が変わって、日頃から言葉について研究している方、または、言葉で伝えることがお仕事である方たちに参加していただき、受け手の立場からの意見や要望などが多く出ました。下記は参加された方の感想です。この会の趣旨は、伝える側と受ける側の間に立って、両方から歩み寄って、効果的に伝わる災害情報伝達のしくみと言語表現を提案することです。こちらからも、両者が集まって討論できる、そういうプラットフォームとして活動を続けていきたいと思っております。

代表理事長：新井恭子

「定期研究会に、9分野から14名が参加」

言葉研究2名、メディア2名、気象研究3名、防災研究2名、マーケティング1名、コンサル1名、広報1名、その他2名が2時間にわたって、活発に意見交換しました。当会の活動に関心を寄せる専門領域の多彩さを物語ります。とかく学術研究であると、組織はタテ構造をとりがちになり、結局、実社会に生かせない研究に終わってしまうことがあります。当会はこのように平たく交流することによって、社会に生かせる研究を推進しています。ますます平たく広がることを期待しています。

副理事長：西根英一

参加者の感想



○先週は、日頃お付き合いの無い異分野の方と情報の交換をさせて頂く機会を設けてもらい、まことにありがとうございました。気象情報や避難等の広報に関して、簡潔で分かりやすい文言を用いることもさることながら、住民の側で広報の内容を理解するためのリテラシーの向上とが両輪となって歩調を合わせないと認識の齟齬が生じ重大な被害を生じる可能性がありますと感じました。これこそが、この会の重要な使命であると考え、その成果を期待しております。また、この会で検討される防災のことはに関する知見を、広く研究に取り入れて行ければと考えております。

(消防研究者)

○『命を守るための情報がうまく伝わらないことへの危機感』これを共有できる勉強会であった。災害のたびに明らかになる情報伝達の不備、我々が平時に準備しておけることはどんなことなのであるか？所属組織の知見だけで考えることに限界を感じ、勉強会の門を初めてたたいた。そこで驚いたのは、参加者おのおの別々の業界に属しているのにも関わらず、問題点と意識する箇所が近かったことだ。その中で背景知識の違いから、多角的な議論をすることができた。組織の殻の中にはない、光明とも言うべき様々な視点、今後も議論の積み重ね、新たな知見を紡ぎ、現状の打破に少しずつ近づけていければと考えている。

(気象研究者)

○先週は初めて研究会に参加させて頂き、大変勉強になりました。ありがとうございました。意見・感想としては①「防災のことは」というこれまでに無い新しい観点/切り口が時代のニーズと合致している②もう少し一つの事象をサンプルに深掘りした討論・意見交換ができるといい③民間企業から災害を経験した関係者が参加すると層に深みが出ると思など、簡単ですが、すみません。

(PR会社経営者)



次回研究会のお知らせ

6月12日（金）

18:30～20:30

場所：東洋大学白山校舎
セミナー室

①「やさしい防災のことは辞典」の出版について

②研究発表（2組）

※詳しくはホームページ



入会案内

入会条件は特にありません。
災害の時の情報の伝達について、
問題意識のある方なら、どなたでも
入会頂けます。

【会員の特典】

- 1 研究会、シンポジウム等のイベント参加費無料（研究発表の権利）
- 2 情報交換のためのメーリングリストに登録。
- 3 研究会の出版物、論文集の無料配布（投稿の権利）

【年会費】

（期間：4月～翌年3月）

一般 3,000円
学生（院生を含む）1,000円
賛助会員 10,000円

【振込先】 ゆうちょ銀行

店名：〇〇八 店番：008

貯金種目：普通預金

口座番号：5162692

口座名義：特定非営利活動法人
防災のことは研究会

※または、研究会やイベントに参加されたときにお支払いいただいても結構です。

○全く違う分野の人が来ていてフリートークに近い形は多くの話や経験が聞けていいのですが、気象現象と大地震・津波はテーマが違いすぎるので少なくともどちらかにテーマを絞った方がいいと思います。また自治体やメディアなどそれぞれの立場で言うべき言葉、取るべき対応は変わってきますのでそのあたりをもう少し突っ込んだ議論にしたほうがもっと具体的な対応策が見えてくるかもしれません。次回出席できるかどうかまだわかりませんが、今後もよろしくお願ひします。

（テレビ報道局勤務）

○「防災」「安全」について「言葉に何ができるか」を個人的なテーマに参加させていただきました。ふだん接することのない業界の方とざっくばらんに話ができて、（月並みな言い方ですが）刺激を受けました。ありがとうございました。①「どんな言葉が伝わり、行動を喚起するのか」言葉の説得力は「誰が」「いつ」発するかで大きく変わることを再認識しました。②「どう伝える」の前に、そもそも「聞いていない」「聞く必要を感じていない」層にどうアプローチするか、根の深い問題だと思いました。③情報の受け手として、防災無線の聞き取りやすさの調査はされているかなど、新たな疑問もわきました。

（ライター）

○必要な情報をいかに的確に伝え、直接的避難行動につなげられるかは、ずっと論議されてきたはずなのに実は未解決です。「防災のことは」を考えることは、避難すべき人々を動かす「やわらかい防災」には必須のものであり、こうした研究会があることを知って参加させていただいたのは、自然な流れでした。一般的にことばは、場所・タイミング・目的によって意味が違ってしまうものがあります。同じ時と場所にいる人たちでも各人で捉え方が違ってしまふものです。「逃げる」あるいは「避難する」ということばも例外ではありません。さまざまな状況と個々の立場を越えた普遍的な伝え方があれば良いのですが、なかなかむずかしいことでしょう。それでも可能な限り高い割合で減災につなげる最善の方法がないかを今後も模索すべき、と考えています。“防災のことは研究会”によって何かヒントが掴めるのではないかと期待しています。

（民間気象会社勤務）



事務局

〒112-8606

東京都文京区白山5-28-20

東洋大学経営学部第53研究室

代表理事 新井恭子

電話：（研究室直通）03-3945-4898

メール：aria-k@bousainokotoba.com

HP：<http://www.bousainokotoba.info>

